の如しと。

(田 中)

●魚類の皮膚に存する棍棒状細胞

オクスナー氏は圓口類及硬骨魚の皮膚に存在する一種の特有なる棍棒状細胞に就て研究したりしが、其結果によれば是等の細胞は硬骨魚中鮭科の外の喉鰓類に存在し、他の近縁の科の者にありては或は存在し、或は缺亡せり、太口科及硬鱗類に存する或類似の細胞は、棍棒状細胞なりや否や疑はし、棍棒状細胞のある魚類にありては口鬚を除き體の全面に散布し、唇には稀に存在せざる事あり、其唇にある者に在りては、舌の皮膚にも、粘膜にも存在し、且頗若き者の咽喉にも存在し、其分布は頗る不規則にして、最も其數の多きは、頭部、頸部にして、最少きは胸鰭及尾鰭なり、是等の細胞は單細胞にして腺細胞に屬し、保護の作用を爲す者なり、體部に傷痕ある時は其上に重なりて之を保護し、鰻にありては排泄其他の用をなす者なり。

(Arch. Mikr. Anat., LXVII, 1905, P.124) (田 中)

●神経系の研究

クルト、ゴールドスタイン氏は硬骨魚の大脳及間腦の構造を研究し、クルト、ベルリネル氏は種々の脊椎動物の小腦の組織及發達を研究せり。

(田 中)

●皮膜細胞の多核細胞

バコー氏の研究によれば、齧齒類に於て其食道の多層皮膜には往々多核細胞ありて、其核の數を二個乃至四個を數ふべく、互に密に相並置せり、此等の細胞は直接分割の結果にして、多くは平常の情態にて生せる者なり。

(田 中)

●^{トビハセ}彈塗魚の眼

彈塗魚はペリオフサルムス及ボレオフサルムス屬の者にして近來フォルス氏の研究せる處によれば、水晶體を網膜に近け以て遠距離を見る事を得る者にして、休止せるときは水晶體は角膜に近けとも鞏膜軟骨の周圍に存する横紋筋の收縮によりて、後方に引かれ、網膜に近き、以て硝子體の空處の存在せざるに至る、而して此の如き適